

2011年度 文教大学生活科学研究所

研究報告会記録

日時 2011年12月17日(土) 13:00～17:30
 会場 12号館3階12306人間科学部演習室

開会の挨拶 研究所長 神田 信彦
 総合司会 研究部主任 星野 晴彦

発表一覧

- I. 知的障害児・者支援における物的環境整備の意味と意義
 ～“教育は人なり”を超えて～ 文教大学 教育学部 八藤後忠夫
- II. 日本とスウェーデンの援助規範意識の比較に関する研究
 文教大学 人間科学部 星野 晴彦・大塚 明子・秋山美栄子・森 恭子
- III. ソーシャルメディアとアメリカの政治変容
 ～ティーパーティー運動を中心として～ 文教大学 人間科学部 前嶋 和弘
- IV. 論理問題解決能力に影響を与える加齢、衝動性および環境要因
 客員研究員 慶應義塾大学 先導研究センター 鈴木 国威
- V. 20世紀前半フランス民間母子保護事業に関する予備的考察
 ～トゥルコワン「乳幼児保護事業団」の事例から～
 客員研究員 熊本学園大学 社会福祉学部 岡部 造史
- VI. 商品評価における同調について
 文教大学 人間科学部人間科学研究科 川崎雄一郎
- VII. 運動継続に及ぼす運動の動機づけの効果
 文教大学 人間科学部人間科学研究科 中田 伸吾
- VIII. 2011年度農業体験についての報告
1. 農業体験 文教大学 教育学部国語専修 柳橋 康平
 2. 養豚体験 教育学部数学専修 塩入 菜由美

閉会の挨拶 所長 神田 信彦

生活科学研究所紀要 投稿規程

- 1) 本紀要は、生活科学及びその関連領域における理論・実証的・実践的研究に関する論文、研究ノート、その他、編集委員会が必要と認めたものを掲載する。研究ノートは論文には適さないが、それに準じるものとする。
- 2) 投稿者は原則として本学専任の教員(助手を含む)とし、ひとり一編(筆頭著者の場合)とする。共同執筆者のうち筆頭著者でない者は、もう一編まで掲載可能とする。本学専任教員でない者の論文の提出については、本学専任教員の推薦を必要とする。
- 3) 投稿論文は他誌に未発表のものに限る。
- 4) 採否および掲載順は編集委員会が判断する。
- 5) 編集委員会は投稿原稿の内容および字句について不相当と認めた場合は執筆者に訂正または検討を求めることがある。
- 6) 論文は原則として刷り上り 10 ページ以内、研究ノートは 4 ページ以内(図・表を含む)とする。(刷り上り 1 ページは横書 43 字× 39 行で、400 字詰原稿用紙 4 枚分に相当)
- 7) 原稿は投稿論文執筆要領に従い作成し、原稿表紙には和英両文の題目・執筆者名・所属・所在地などを記した送状を添付する。
- 8) 校正は原則 2 校までとし、執筆者が行なう。
- 9) 執筆者には別刷を 30 部贈呈する。それ以上を希望する者には有料で頒布する。
- 10) 投稿期日は、締切りを 1 月 31 日とする。

投稿論文執筆要領

- 1) 原稿の分量
ワープロ原稿の場合は A4 版・横書 43 字× 39 行の書式でプリントアウトする。刷上がり 1 ページは 400 字詰原稿用紙で 4 枚分(原稿用紙の場合は、B5 版・横書 20 字× 20 行の原稿用紙を使用する)。
- 2) 提出する原稿の構成は、表紙、要旨、キーワード、本文、表、図、図説明文の順とする。原稿の表紙には、英文の題名、ローマ字の著者名、和英両文の題目、執筆者名、所属、所在地を添える。要旨は日本語で 400 字程度とする。
- 3) 図及び表の原稿
 - i) 表は、表ごとに別の紙に書き、本文の原稿とは別に一括する。番号は、表 1 のようにつける。図も、本文や表とは別に一括し、番号は図 1 のようにつける。
 - ii) 図表の挿入箇所は、本文投稿用紙右側に図 1、表 1 のように鉛筆で指定する(変更することもある)。
- 4) 著者脚注は*、**、***の記号で示し、原稿の下段に横線ではさんで入れる。

5) 文献の引用及び注(註)は、本文末尾に一括して掲載する。

引用文献・参考文献は、著者名、年号(西暦)、表題名、雑誌名、巻、号(単行本の場合は出版社、その所在地)、及び何ページから何ページまでを記すこと。

例 文教太郎(2004)「表題名」『雑誌名』30 pp.89-102

原稿の提出について

1) 原稿はかならずコピーを取って提出すること。

原稿は、CD-ROM、USB、フロッピーディスク(氏名を明記したもの)と、プリントアウトしたもの1部を提出する。(ワープロ原稿の場合、CD USBおよびFDは原則としてWord・一太郎で作成したもの。)

2) 図・表・写真の原稿は必ず本文原稿と別にして提出すること。

3) 校正受け渡しは国内に限る。海外出張等を予定されている場合は、出発前に校正を完了すること。また執筆者校正は原則2回。(印刷所からの直送となる。)校正の期日は厳守すること。遅れが著しい場合は掲載を取り消すこともある。

4) 英文表題のネイティブチェックを希望する場合は、簡単な要旨を別紙に記入し提出すること。